元治記事 十四

内閣文庫
和書 類
二七〇八六 號
五 冊
一五 函
一 架
(四十六)

内閣文庫
番號 和 27086
冊數 51 (42)
函號 151 1

国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫
日本政府図書

於本府城下並戦場往来之儀も御許之御旨趣也

此分左之通

一 大坂表騒擾之節右御用之趣

田原兵書之殿より有之儀に而御上意有之ニ付猶又其趣承知可之候

十月廿八日 於沢之殿共存 於此府城中并御取計 公邊掛

此度出席左之者是ハ此度御供御賞ニ絵之上其御申ル

吉居潤三郎　　太田嘉右衛門　　山中新右衛門

蜀地兵助　　今井久之丞　　中村小三郎

中村信一郎　　山崎藤七郎　　蓑原源三郎

田山兵五郎　　中野金五郎　　長谷鶴六

芦根三之助　新倉弥之丞　関口八郎
広田安吉　鈴木盤之吉　近藤平吉
小林小吉　三宅甲内　須藤浅右衛門
真嶋源之助　野田七郎　山川寅次郎
平山徐之助　松本一之輔　村田半之助
新倉捨之丞　真嶋富之蔵　宇都宮金之助
須々木治右衛門　右之外九人〆百人余
右締者之者共ニ而鉄砲十丁所持致し直ニ相向候ニ付要
のことに御座候得共
九月十九日関宿戸田安房殿江御注進申上候　松平周防守殿

人数ニ相成　此度此所ニ寄来ル十七日度一同北岸越可致大宮
村ニ而致差越候様竹槍鉄砲ニ而引込候処血鎗ニ而参り相手致門
ニ而同人衆ニ相向ひ候処鉄砲打掛ケ候ニ付相引致候処
ニ而有之候ニ付左之様ニ而同所之者江申候処大宮村役人共仰付
無大勢之様子ニ而侍共江相待村役人共申付之者共之
之地侍共寄集り鎮圧之事ニ而者申付候処御代官御遣之人数ニ相向
相成候処鎮圧候之者共又者左之者共御役所江御届申上候
之ニ而相対シ相引申候人数二百人程ニ而押寄セ申候
之二番之者共又御用捨被成候様ニ御願申上候鉄砲
鎮圧方之者共ニ而大宮村新田其外ニ相触候得共
右野方之者共ニ而相対候処相手ニ而其外ニ而御座候

大半へ討死を
極めたり 関所を渡候中にて鉄炮ニ而(?)[illegible]

鉄炮に人数を相立至六人 足軽代人少者二人都合十余人

討死之ニ付十余人 足軽一人都合六人 深手負之 縄鉄炮

ニ而七人討死 [illegible]籠城之 首十二討死 此外[illegible]

御利と四[illegible]深入[illegible]と上ケ [illegible]候て取揚

内[illegible]として 堀田[illegible]度人数多く[illegible]松平[illegible]

[illegible]度人数[illegible]人数[illegible]

城[illegible]大[illegible] 門[illegible]大[illegible]候

[illegible]候へ[illegible] 討[illegible] 門[illegible]

[illegible]候へ 九人[illegible]

候て渡へと 大手入口 虎橋を落し [illegible]石垣[illegible]候

申 塀柵 [illegible]種[illegible]鉄炮打[illegible]

鉄炮[illegible]鉄炮[illegible]

大[illegible] 堀田[illegible]

[illegible] 門[illegible]一万[illegible] 足軽[illegible]一人[illegible]

候間ニ長サ廿九尺 口八寸程 大炮数合[illegible]大炮[illegible]

攻[illegible]櫓へ[illegible] 中[illegible] 塀へ寄

[illegible]

候所[illegible]討[illegible]首五十級[illegible]討死[illegible]

人数ニ[illegible] 候へ[illegible]

寄手ハ軍勢多候得共城ハ廣く堅固にて山中山精
謂ハ処攻寄候得共城兵僅ニ八千人程討死二千余人
生捕者大さ塩残党ニ打懸り候ものも有之候由ニ而
討取候者名前ハ未分追而書記可申候

一 柳本城へ　大炮五挺　一 寄手方へ　大炮二挺

一 佐倉城へ　大炮九挺　但し二十八挺とも云いつれも外ニ無之由

一 筑八流　但此流ハ当時無之由　右ハ二百目　但此流ハ当時無之由候　右五十目

寄白大砲大合戦ニ及び城中防戦手強く与力

田中捕り候ものと申ス内山寄ゟ御尋ニ而中ニ而

十四人程御座候處御尋ニ付申上候

去ル廿九日申刻頃より同夜四ツ時迄大筒打懸ケ候由

大塩平八郎生捕漢へ召連候由其外ニ而大塩浅く

怠り候ニ付候而大坂城代へ申出候ニ付上坂之

角右衛門儀と申者大坂城代ゟ申上候御座候

振ニ而謀叛之趣ニ付大坂城代ゟ申上候処

御領分之御固メニ付御取計之由申上候

且又寄手ハ何れも大坂表ゟ差出し候由

者ハ大塩手向ひ候ニ付申候処

御承知被成候處大塩平八郎召捕候

其上何れも申上候様ニと被仰付候

廣戸田安助勘定之條原ニ出張として諸町ニ而
鋪処ニ居候ハゝ伊豫へ御やう文之ニ存候趣ハ江戸へ
しやと沙汰ニ及候処相達し候大坂町奉行堀伊賀守
用人金川と申者申来り候ニ付摂津国御料所取調方
出役ニ付右勘定其外御徒目付小人目付
出立ニ相成候処右之通り申付候由ニ江戸へ申達候由申来り候
但御普請役之者共ニも同様申来候旨申候
右之通り申達候ニ付大坂町奉行之儀も承り候
御心得之ため申上候以上
右御届申上候以上

一
九月廿二日大坂町奉行跡部山城守当番ニ而百人余集
来りしに溝口周防守殿へ相届候処人数相揃
出門より十五日町奉行所へ大番頭并組頭松平相模守殿へ通達
同所出張之町奉行中溝口へ申達候通り御年寄中松平伊勢守
目付役所相届候処西丸御目付へ通達ニ付御用番御書
并人数并二百人余集り田沼殿へも御届書差出し
候人数其外宿所へ通達ニ付御家来へも相達し候処
道筋ニ而右人数之内ニ而御用番酒井下総守殿御用屋敷ニ
相届候而其外先手組之方ニ而御届之上御届之
大坂御城代土井下七郎町奉行所
此度之儀ハ格別之儀ニ付大坂
表ニ而申達候ニ付御覧之大坂

[illegible]

速ニ出張候て[illegible]之御方

人数引具し[illegible]大坂[illegible]一同大小従出張[illegible]

東方ニ而大ニ敗[illegible]之内七人迄ハ自殺致

事ニ[illegible]人数も一同[illegible]を[illegible]

[illegible]

[illegible]一同[illegible]上江戸へ志し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]井[illegible]出[illegible]田[illegible]

速ニ[illegible]田[illegible]井[illegible]松戸

[illegible]一同[illegible]

[illegible]松戸[illegible]

[illegible]出[illegible]大[illegible]松戸[illegible]

[illegible]出[illegible]人数

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御先上ニ而御旗之丸ノ御目印ニ而有之候処[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

先陣ハ二番手ハ先手物頭ハ水戸殿御一門松平頼徳
[illegible]
[illegible]
[illegible]
南館町[illegible]大平村[illegible]
[illegible]村[illegible]川[illegible]
八月中水戸殿[illegible]

一 八月廿日大炊頭殿[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]七月中[illegible]
[illegible]武田伊賀守[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]武田伊賀守[illegible]

戸石ハ小山田備中守ニ被仰付候、加勢之衆ニハ在番廣
小山田弥三郎・同千野(?)太郎左衛門[illegible]
同名上原ハ諏訪郡代当地[illegible]熊谷左衛門
西条郡ハ原与千野出羽守・岩井弥三郎・三浦[illegible]
飯倉(?)甚左衛門[illegible]弥之丞[illegible]
堀田(?)[illegible]鉄之介[illegible]
[illegible]神田右衛門[illegible]
又六ハ大将ハ武田[illegible]門[illegible]七[illegible]
[illegible]其上[illegible]金[illegible]
居城ノ[illegible]百[illegible]

[illegible]細[illegible]尾[illegible]田中
[illegible]大将[illegible]川[illegible]七郎[illegible]
[illegible]八郎[illegible]小山田[illegible]
[illegible]
[illegible]山林[illegible]林[illegible]七人　其外[illegible]
[illegible]三[illegible]人[illegible]
[illegible]小山田[illegible]
大将[illegible]
[illegible]武田[illegible]一味之[illegible]
[illegible]
[illegible]七月[illegible]

三月廿七日筑波山ニ[illegible]出し[illegible]人数[illegible]筑波山ニ而[illegible]
[illegible]相[illegible]候処[illegible]候[illegible]
[illegible]水戸[illegible]七月九日[illegible]
町[illegible]御[illegible]水戸[illegible]
[illegible]十[illegible]
[illegible]
[illegible]
御[illegible]
[illegible]筑波山[illegible]
[illegible]元治元年[illegible]
[illegible]江戸[illegible]
[illegible]
[illegible]人数[illegible]
[illegible]
筑波山[illegible]
[illegible]水戸[illegible]

[illegible]水戸[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
市川三左衛門[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]十二月[illegible]

町ニおゐて中納言殿御名代先達ニ而書院殿所信解
中々護へ人数召連先達ニ而罷出候所
中老所人数者中々入城之趣を以申達候
中老所中台上聞ニ付ゝ不申ニ付ゝ
御座候ニ付大勢入込候故御断申候ニ付人数入込之
趣ニ而不案内之者共罷出候ニ付其段中聞
彼是申ゝ大勢之者共押込候ニ付御断申候所
入込申候

城方より大勢入込候ニ付信解計ニ而入城致候
中ニ者きも之案内致候処ニ付出入之者共
業ニ而日々一人ニ而も城へ入込申間敷旨被
申付候ニ付口上ニ而申遣候所大勢
殿ニ入込候町之者共も中々申候ニ付大勢入込候

前ニ而申付候處中納言殿被下候ニ付右之趣申聞
候處何程人数ニ而も不苦候旨被申候ニ付段々
申付ニ付其趣ニ而入城之段申聞候
右之段申候處中々不相済候ニ付御番所ニ而
右之人数之内申付候ニ付中々入込之段申聞
内一人相手ニ而中々申聞候ニ付入城中ニ而
右之段申候ニ付中々申達候ニ付
出会ニ而申聞候ニ付三人ニ而中々罷出候
ニ付御番所ニ而申聞候ニ付御番所之者共
御之内罷出候者人数押込申候ニ付罷出

みて遊佐橋職かうしたる処大坂勢後に至りて
引返して城方へ打込乱押し　町口一番
乗寄高木合戦にて及ひ城方勢大坂武田勢
掛けて討ちに追いて遊佐橋境に清通
松川まてより磯に渡り大黒村泥町辺より河辺
蔭橋にて館に城方へ打寄年半
侍衆武田勢に続て押掛け古花寺掛け
城方かた古城へ追て大黒村泥寺
山へ追て此館へ職よりも十六日より
大坂の館へ寄せて武田勢岩根山に

攻寄城方の人数一戦にて及ひ大坂勢
より御城へ押寄候処に
て
田勢追て川へ押付し押寄十六日追て一番戦
年城方侍ふ　さて討死　定て戦
応取城方へ押寄候処大坂の衆
讃岐　太夫ら十七日先陣
織部　古
九二の丸にて寄せ　城下の新手鉄　五丁矢
城方より武田の城方の鉄　城方手負数鉄
京よりも城方討死の者大坂衆出て鉄

一 九月九日ニ葦名之 此衆引候て村々焼払城中ニハ
治部大輔[illegible]

之ニ付[illegible]四月[illegible]此一揆[illegible]二十日九ツ
葦名[illegible]一日十[illegible]
[illegible]
[illegible]

九ガイヌ[illegible]新發田[illegible]
[illegible]大隊[illegible]
城中ヨリ押出し　新發田[illegible]
新發田[illegible]大軍押出し　[illegible]

死多し然ニ當城方より[illegible]　新發田[illegible]
河追[illegible]
樋口藤原[illegible]
[illegible]中納言[illegible]
[illegible]
[illegible]田中[illegible]
金上[illegible]
大勢[illegible]
一[illegible]
濃[illegible]

田中ハ縫町ヘ田丸ハ濱ヘ陣取候
新生館ヲ取返シ城方より分捕之大炮八挺
内壱挺ハ八寸径二挺ハ壱貫目筒二挺外ニ一挺
ナミトイム一挺外ニ發流筒一挺メ八挺也其外車一輛
此外帯刀所ニ而鐵砲四五拾挺程
手槍五六拾本ヲ奪取ル八人生捕
無勢ニて分捕とも申事之
[illegible]
城方兵粮軍
悔ニ付具足其外衣服より一円之品不残生鮑
一切ヲ討取申候城方ハ爰ニ討取候而
再び合戦之人数爰ニ而出張人数太田勢
出張追之水戸城ニ繰込候其方

久慈川迄ハ増田勢二万人ニ而松平右京亮人数
百人程出張渡而尚小川館を追討取潮来館
城七万人余人数ニ而近傍候所ニ而
候ヘ共

一谷川陣屋山野邊主水正領分ニ而御代官所構有之候
家康様小田原御陣之節城方十川手引致シ候ニ付
彦陽山野邊遠江守人数を入候得 日本 城方之陣屋当時
其陣構ニ為入念候よし

一柳原村之辛之塩見より寺社御水車楼ニ而上ニ而七八
矢位宮之窪上下中ニ家を立弦施製造備之此所ニ而
御入込居候ニ付南兵方ニ而十九日十九日之鉄砲を打掛
焼払候事

九月廿日小川顔之勝負戦之事

一官軍并諸家人数此所揃入候而陣配致候先之道

一 戸石越ゟ七八百人程ニ而木古内館田村両山村迄出張
并 二股村侍ゟ人数四百人程ニ而 松前勢退去
松平周防守人数五六百人ニ而湯ノ川館攻手
松平大和守人数四百人程ニ而桃内ゟ出張
福山稲穂ゟ人数五百人程ニ而江差海岸ニ固メ
当兵請取之事一家宅ヘ人数引払城内外ニ固メ
而後大事ニ及候処書院番頭小笠原殿此七五百人程ニ而
城ニ至ル 而後九月 九日ニ至り大砲放候て降人ニ而出ル
出川之者ハ 湯之水府へ出張来ル
弘前之者ハ入込候ハゝ
陸中ニ而出張之事
一 小川館ニ出張之兵湊ニ至り城攻ニ付 林五郎三郎始メ

七百人程籠居候処 九月朔日ゟ押寄候処松前
周防守人数七百五拾人市川様之領 鯉淵ゟ出張
迅速ニ砲発三顧一時ニ攻立候処 城落ニ相成 出張二百
二百人計ニ而接戦城落候ニ付大将林五郎三郎首級を
二十一級討取小川館ゟ退湊ニ相成候処 放火致し
右前ニも放火致ハ大砲ニ而合戦中跳矢
北鉄帯之砲 鬼剣山ニ江戸
日末 領田両山ニ逃候処五十
田部山門ゟ押寄戸田勢接戦致候処放
人程之者ニ而押寄候処 大砲ニ挟討 其外 討捕
之討死中ニ人有之 二人 討之候 出張
下ニ而村ハ残兵ゟ人数之者 出張
処ニ而候処 兵共 打込 撃ニ而討取 戸田
之九月廿日 御鉄砲人数 打破 候
へ参り 并 保原無荒保原在居 捕候大将ニ而指揮 五百人
川田

金澤東岸寺近方追退大和津辺ニ而屯集ニ付右討手人数
并新手堀田相模守人数五六百人金ヶ森ニ而宮崎ニ而ニ
同六日夜寺押寄候処一戦之上本庄霞ヶ浦北浦ニ而放
之小船ニ取乗り逃去リ候船ハ高浪ニ而破船監物ハ当座
桶出シ候処逃去リ候処後追駆ケ打取リ候小須沼
中ニ沈没ニ付御届候処死骸見届候　然ル処其外ニ而
多勢ニ而手負死人有之逃去七ツ時府中ニ而押寄候処より行方
宿所ニ而後藤飯田飯岡府中ニ而御見分之処府中蜂起出し
入口ニ而討取候処居合候者兵頭北条新太郎人数渡（後）
より追駈鉄砲ニ而前後ニ而討手之者受取府中蜂起へ

打入り府中人数を追払ひ府中を通り抜け出候
より右太田扇之進処ニ而土浦城より人数繰出し
合戦五六人討取候残賊共ニ而右之内逃去候得者
其辺逃去候ニ付山村ニ而討取候処切腹ニ
体ニ而追て首出し候ニ而多人数召捕大将分伊藤益荒
同勢之者ハ山中ニ而自殺致し右首ハ検分持来
御用所出之者検分相済候所府中宿へ一人付添立
申候処其外ニ而人数御預ケ之者ハ付届
有之候ニ而御届之上此者ハ府中宿ニ而御届也
右之外六日より十六日まで右村々辺より出張大勢
追々其間ニ争戦ニ及び城追て始末之事ニ候

同日混乱ニ而一向不詳 村十九ヶ所より海岸を織の浜
洲崎辺迄浦安ニ至ル 右部ニ渡 八ヶ所ニて暗号
船廿四ヶ年磯貴湊ニ而用意 佐倉市川ニて軍功有之候
増居戸も有之
一九月廿三日義戦村ニ而鹿山堂山ニ而賊と共討手出張
二字余ニ而同日之暮佐倉ヶ陸より砲隊砲発出張之兵居
勢四五人市川ニ居宿門勢四五人旗屋敷より二手ニ
分レ市川勢ハ右浜手へ手勢ハ竹屋敷へ打向
鳥居湊瀧へ此より出 一文字ニ打進ミ殊兵急ニ
打攻ニ而東中根村西深川より右勢ニ一里余市川

二里近く有之候所一ヶ所松林中ニ十七挺余ニ而所々より賊
方より大砲ニ而賊方より頻ニ砲発右林
中退場所ニ而陣押寄散乱賊兵を打破り逃去
一里ほとも攻寄候處居賊方打負出張
手配下知ニ而遂て出張此上
海手ニ而又敵之
首も取
湊へ放火致し勢ニ寄
攻立賊とも多人数討取殺剥血戦市川勢ハ平磯
町家へ放火御焼払深励之近辺
柳原小泉祖町ニて勢
砲打ち班ら打加部之原へ由

従諸方迎来ル城の伏兵も雑計ニ市川縣ゟ之兒
几ハ下ル岩ヲ遅メ門上ケ国迎ニ出此時タ七付迫ナルベシニ十余縫刻
故勝関太ヲ上ケ引上京ニ進中ニ前後ノ城無戦ニ而掃
木ニ縮ミ手負人ヲ少ミ立寄ル故ニ城ニ所ニ除ヶ旧ニ而逃ル
存命六ツ〆しき体従ヘテ名ハ渕本半蔵ゟなり
物ハ殺也ト云 蜻ニ上泉軍多聞（なもん）等ニ乗リ色々鉄砲ニ而
半蔵中聞ゟ二六ケ所ヨリ傷ヲ受ても迫ル也内藤ノ家
此事去りとて此侭居ル所ニ岩定親ニ討レ以来ハ鐵
砲ナリ早ク親首討て内藤ヲ親ト云ハ甚ニ早ク多
十方ニ分レて此者等ハ親とも言ひ此をとるに居ル所ニ露ハ

半蔵大ニ怒り早ク首ヲ討ヘしと頻りニ云ければ
家人の心得（ひかえ）居し鉄炮ニて兒ニ當ル故ヘ討しと半蔵の首
を切落し内藤鉄炮ニ而當殺ス人ヲ打ル故ニ命侍ゟ乙人
手負二人ハ討死ニ而是ゟ者ハ足軽弐人ハ討死ニ外
此死計なり敵討死ニ而凡四五人軍ト云内壱人ハ金之
採持ニハ大将之首存ニ 名ハ安藤 相市川縣も之れ家
多ク従ヘ無戦故ニ城を出ル迄居付平城ニ而殺ス也
不残焼失ス雲霞ノ如ク兵多ク勢とも浅間ニ攻ル覚
急ニ攻れ前ニ落募ニ都而人数凡上ケ城市川桜ニ
切立らる城とも迎ノ生兵ヲ其の四五百人ニ先ツ立チ

其内石川五右衛門・岩加野例より境作ル
飯白谷溝村と云ふ所あり　鋪ともに武蔵へ逃行候得共
此前打撲ル人ハ当地ニ而生捕飛人當旅等ニ張候
三十郎与申者も捕十月三日先戸堺ニ而切出又
谷溝村ニ而二人生捕ニ一ヶ而此者何者
八州方へ捕置
九月廿二日浦賀より小船ニ乗り脱走の船ニ被
其後又船五艘ニ而蒸気船ニ乗り絶縁沈
没と云事ニ而五十人計り乗り候船ハ破船ニ相成り

蒸気船より絶命致候者浦賀へ流寄り候由申候

蒸気船ニ而蒸気方二名引當去人也生捕相成候ニ
安房館山の漁人計り浦賀へ参り合居候ニ
道連ニ而十郎必死ニ打来候近寄候得共引退ニ而
其内助ケ候船ハ房州へ漂着致し蒸気
船一旦浦賀へ参り船以前十月四日織浦賀へ
同所ニ而参り浦賀沖へ出帆黒龍丸
打船候ニ而
八月九月中所々ニ而生捕ニ相成候
生捕大凡左之通

織　橋本新八郎　岩崎源蔵
唯内清助　中島英八郎
宮八　加代織吉

外

右ハ松平周防守人数ニ而生捕

辰吉　千代吉

水戸殿長岡村
百姓熊次郎忰
高倉熊蔵

小畑講武所
柳島百姓
内田周助

府中宿出生
敬次郎

笠村出生
彦次郎

右九月六日常州鉾田大船津村ニ而討死

常州田辺村刀倉井村ニ而
長谷川信十郎

木内安之助

織田熊之允

友吉

川俣茂七郎

椎村谷五郎

右宍戸町太田町地内ニ而鯉淵農兵ニ十手ヲ以迯とも為致
討又生捕

姓名不知者千人

右栗原村玉造村地内ニ而土浦家人数ニ而討取

石川平助　姓名不知者五人

府中宿ニ而松平播磨守人数ニ而生捕討取

保谷益荒　野州足利村出生

同　斎藤　日州出生

船越右衛門　出門村生

吉右衛門　外

小倉出生 浪来 外五人

右常州結城郡村方ニ而領主牧野越中守人数ニ而生捕内
保坂某之亮 自殺

秋山英之助　清水之丞　多賀谷平三郎

井上庄助　菊池敬之進　芝山内膳

上原亀之進　同 伊平治　野月東太郎

関根良之助　細谷勘蔵　小林幸之助

三木定右衛門　倅 同 多之助　同 仙蔵

木村要八　太田兵蔵　大塚久三郎

芳賀政吉　川崎与之助　篠原八十吉

右廿一人去九月十日朝千葉郡土井大炊頭領分下総国
葛飾郡山崎村地内ニ而同家人数ニ而生捕
但右之内鏑木之助大罪樹門外大罪瓦野之者ニ而生捕分

永井芳之助 水戸浪来　高橋春之助

西岡邦之助　同 宗吉　同人 弟

大塚義之助　和田為之助 水戸領 倅

忠吉

廿七人ハ去ル同月中所々ニ而生捕

村松勇之允　昌木晴雄 出生

保田平三郎 出生　今渉織 出生

右ハ今九月十四日水戸上町下町引廻しニ而磔ニ行ハる
右ハ城下引廻り之上大雷村より一里程手前
ニ而磔ニ掛らる

立原朴次郎 首　　川俣茂七郎 同　　梅沢鉄次郎 同

大原壮之進 同

此外今日打首

石川熊次郎 常陸国茨城郡紀州郡 半村 当百姓 四十五歳　　大國吾 同人組 ... 二十三歳

鈴木金吾 千... 郡 ... 村 ... 四十二歳

長谷川安之衛 常陸国茨城郡 ... 村 当百姓 二十四歳　　鈴木 ... 二歳 西 ... 郡 ...

吉田市之衛 川俣茂七郎組 ... 郡 ... 村 十九歳　　井坂吉右衛門 ... 郡 ... 村 ... 十九歳

鈴木孝之助 川俣茂七郎組 常州新治郡 ... 村　　酒井多助 同人組 ... 二十九歳

庄吾 同人組 ... 村 ... 悴　　酒井儀三郎 同人組新治郡 ... 村 当百姓 二十七歳

星野安之衛 同人組 ... 村 当百姓 二十六歳　　小林久四郎 同人組 常州 ... 村 当百姓 二十二歳

飯村新之助 飯村新兵衛 ... 組 常州 ... 悴 二十一歳　　久治郎 吉井村

池田左衛門 同人組 ... 村 当百姓 二十六歳

右者今九月 於北条新右衛門人数ニ而牢中
家来ニ捕ニ生捕 牢中 ... 牢舎十月二日十六人 ...
同所ニ而死罪ニ行ハる

一 長吉 川俣組 ... 出生 十六歳　　倉之衛 千 ... 組 常州 ... 出生 二十六歳

右牛久山ニ而生捕 ... 領分ニ而牢舎 十月七日 同所ニ於而

死罪ニ行ハル

一 挑子とも九月六日江戸表出立十月二日水府へ入ル
甚五郎陣所左之通

祝町
願入寺
荒浜
山寺

堀田相模守 人数五百人 程
常州土浦 河野伊予守 大塚五百人
水戸 小出順之助 戸田五兵衛 大塚近江守陣

川瀬
小泉

松平大炊頭 其人数五百人 余
常州 牟岡但馬守 同 五百人
水戸 小出順之助

十月四日松平大炊頭方江人数五百人 袖ヶ浦

東中
根邑
廣場
一圓

松平周防守 人数五百人 余
鳥居丹波守 人数五百人 余
同 井上越中守
藩主方 市川三左衛門 人数五百人 余
同 猿ヶ島 日根野藤之助
鯉淵農兵 四五千人 程
右新村之松村ら多勢援兵

柳沢
一瀬
大久保 久世謙吉 同 四百人 余
相模 稲葉山城守 同 五百人 余
小笠原 和田伝右衛門 同 五百人 余
同 織 織部 同 五百人 余
同 多賀外記 同 五百人 余
高木宮内
丹羽左京大夫 人数五百人 余

浪士騒動　人数七百五拾人余
外 浪人二百五十人余
〆 壱千人程と相見候

安藤理三郎
同 四百人余

右騒人数 水戸殿より来ル十二月内西辺ニ出張いたし候由

一 高崎藩及村堀麟山にて取締 廿六日夜五ツ時出張所ニ而召捕候とも

右者名前之外 左之通

武田保之丞　同 彦右衛門　同 魁助
岡田新五郎　三木左太夫　加藤八郎太夫
中山民部　浅田五左衛門　成瀬彦之允
佐々木源八郎　白井恵左衛門　谷鉄治郎
渡辺?内　鷹島文吾郎　飯田軍之允

一

牧 彦之允　梶 清左衛門（他新 隊移）　福地政次郎
同 政之丞　三木源八　門奈平之助
山田新平治　塙 清左衛門　原 熊之助
岡元弥七　同 甚内　梶 又左衛門
松本平左衛門　小池源左衛門　朝田甚兵衛
大貫熊助　飯田恵之進　横○新次郎
新井源八郎　寺 二百郎　佐藤鉄三郎
小野源之丞　飯島安之允　川俣甚助
根本清一　中田市十郎　芝沢政之允
佐藤藤三郎　山田源次郎　長谷川常衛

鈴木庄兵衛　　三好宗八　　山岡五郎
里見宗左衛門　長谷川太郎　三井孫三郎
市谷三右衛門　田丸猪右衛門　田中慶翁
藤田山四郎　岩谷数右衛門　三杉半六
太宰浅右衛門　飯田権兵衛　大津弥兵衛

右之者所々ニ而宗紀いたし雑兵を相集メ二千人程を
見切ける

一 水府ノ郷下糸之吉田村ノ法華寺へ籠候処九月廿日ニ追々法華
未御仕置相成

一 松平京都所司代ゟ申渡候者家中之者共ゟ内済ニ及候もの

一 中金家谷為金拐いたし候得共主家へ致詐討
剃刀郷へ忍ひ参り一人を通し企及共小姓共候而
悪逆大罪其戦其場にて討取申付候也
月 日

一 武昌末晴猪ニ申付候門弟中へ仕候所ニ大小屋共
誘致其人々を捕手衆を以者共召捕申付候也
月 日

一 松川勘蔵七郎ニ申付候門弟中へ金子為企自他所
所之浪人共召捕候者共へ押入大金等奪取候其罪悪
大罪故討取申付候也

月　日

一　此候ニ生るゝ者ハ衣門鞍中合所ことなし大倉奉取
殺彼大人ハとも殺害候為重科也行事也

月　日

一　此樒従設所ニ生るゝ者ハ右門鞍中合為容易企自他
所ニ入致毛為家来ニ押入重宝を大殺大以負
剣ニ当る人ハ頭ハ設討候為大羅戦争場ニ而討取
也剣刑ニ逢ふもの也

月　日

一　此村標易王鬼ニ生るゝ者ハ門鞍中合所ことに大雪ニ

奪ヽ取り殺ヽ多し人を殺害候為重科也剣
行事也

月　日

一　此大津ニ生るゝ者ハ右為容易企ヽ構へし君恩
忘却ニ剣を受以て死し人道を取者ハ以旅宿
候為悪逆大羅封取也剣刑ニ行者也

月　日

一　此今漸保織ニ生るゝ者ハ門鞍中合所ニ大倉奉取り
殺大殺し人を殺害候為重科也死刑行事也

月　日

一泉州中へ討手之面々ハ去夜取掛り追頭り之所泊渡り之
家老関係定直之延引候処十月朔日起居之所泊
之院之第一番総軍之佐倉より浅山向ひ二番ハ小泉の浅
之崎并姫路ハ臨山へ向ひ継て柳原村之安居寺岸山砦へ
向ひ東中将殿ハ城内之敵を待受郡田砦より雲霞
歳まての所々場之討手ハ手並之銀子五ヶ寺
所々より総軍へ砲台頭り之攻之浅井門を隔てゝ
切りて鉄砲も二十丁欠割ても大筒砲玉
浅野町小泉殿門を早く打破り梯戦へ一方との所々
渡りはしの家大砲敵客寄て難打渡しまた

名手を懐きて鬼角延ハ其内之是當家諸家ハ其急り
姿ある且惣普請に来りより出来す指揮の事しかし
画図之等まて被為指揮のその敵諸軍諸所之家
中根又職も二方人但氏集所も名のに兵粮并共之
十余之程之道て探りの事浅四千軒も名之其内
を騒動家々有之停米穀又千物并所々
且又所々住居之辺米穀西家有之右筋之ハ二三万
俵余も所々其外諸所之米も居之是又多人
数之者食料用意之に依仲之二三ヶ所へも喰ニ為之様
中文も年之御制度有之候處取より盗之有り

勿論宇都宮文蔵喜多場旅所ニ風揚ハンシヤ作厳重すく
有之所勿論宇都宮之所ニ而貯へ置候処
打捨人ハ寄集り之場気宴へ追て城籠り流し出備
言ニ以可果て之処容易ニも打かん之由 訴延ニ相
御尚寄集り御方ニ変動も雖計難有ニ打かんと申
手勢之由 又ニ出政ニ而何済而之甘洲鹿ハ柳沢勢
見送も有之市川勢鯉淵勢東中根より門所之
打出可申ニ而 十月五日 朝五ツ時頃より浪軍総為
試ニ朝軍勢ニ両方備も廃之敷地ニ相争ふきり
と射合ん合戦之処 大砲計りニ而暫時打合所五ツ時

ニ追柳沢へ相進み候処 鯉淵勢瀬り河ニ打出し勇気 柳沢
村の出先より押渡追ニ 出真一文字ニ峯山出陣 と励ましつゝ
続き市川勢并兵勢 柳も攫而柳沢出先より水車へ其下計水車より
峯山より一丁位先ニも水車ハ先陣中ニ
味方出て旅火につゝ作をと只治り候ニ城より鉄砲
砲發ニ而 鯉淵勢勇気強く峯山より八ンシヤ近
家続き関戸町と云ふ これへ放火致し候ニ付 城峯山ニ
たまり兼 此所を打捨ハンシヤへ引退く鯉淵勢
先陣の旗を捨たり 此時市川も後ニ攻入り一番
旗を取りて手ニ旗を切と云ふ 旗を立て鯉淵勢の
たてゝ居りし事なり 倒し市川の 此時右関戸町
迄焼けましハンシヤ館山より砲発頻りなり 此時

扣手とも水戸へ来り居其内鉄炮数多打出し
五人被討取候 久世様方即死怪我人有之候
剛勇も 寄手ハ十分利を得て手強攻寄候所 相補
猶も 余程こらへ兼候得共遂ニ打破りて 相図と覚敷反射
館山両所ニ而狼煙一発ツヽ上けるより湊より援兵
繰寄せの為と見ゆ寄手ハ峯山へ高橋と禁之殊
進於戦ふと外寄ハ祝町小泉東中根の三方村々
打返ニ及ひ出過ると見へ両情て郡田野と近ニ拝て
御陣屋の者共ハ怒りて東中根境堤山ニ而
相まも申れ中腹迄引取リ相残り亦攘軍出張止め
峯山へ押寄せて賊徒引揚ハ不相成 尤其ハ祝町

よ湊へ攻掛り小泉ハ反射炉へ攻掛り東中根
堺ハ郡田野より廣橋へ出押寄打寄せ候事なり
其一日の内ニあらわれて片付属き押掛の処御家
柳沢境計りて外寄ニも一向勇ニ不申悪く残念ニ
おもんへ申し候 尤峯山もハニシヤ館山へ討落ち候
始めて攻取り事ニ有要害も無之今ニ至て攘夷引揚り
よ出来申候

但峯山之義ハ兼而ニ候も 大串組 居候
の御手ニ而相成候事

右の節敵方死骸無之候 許とも

奉行見聞中戦の無双厳比死骸ニ走元宮ニ而ノ事
ゆゑあらん度薬らぬ□□けり　ゐとくれ　ゐめへり
味方討死手負左之通

戦死
家来　出役　井上外次郎

手負
稲垣徳次郎　多賀郡　中間　菊池季三郎
大砲組　信方宮之助　北条山城　家来　来
家兵撥奏役　先勤方　三輪寿之助　大砲撥奏役　黒沢伝之丞
歩兵　仁三郎　撥打疵　突鎗死　大砲方　討死之分　政吉　七先八
患　吉　佐助　左次　六四郎

戦死　浪士　宇田川銀平
討死　同　家来　渡辺熊之丞　同断　青木権之丞
手負　同断　浅野縫之助　同断　平出忠三郎
同断　荒井忠四郎　同断　小菅林蔵
同断　酒井縫之丞　同断　荒川伴作
多賀　小三郎　弐人
手負　鯉淵勢兵　名　三人
右之通十月五日柳沢より攻寄峯山ニ而討死手負
こなたより
一　馬場便宛より追々中城江兼而昭扱

一十月十日戦争有之中根縣板倉内膳正人数
五万人此書院番頭織田河内守人数五十人此
小姓組番頭井上越中守人数五千人但本多
修理人数五万人但丹羽左京大夫人数六万人但
市川三左衛門諸生方五百人余兵方五万人其
外鯉淵勢ニテ鉄炮五十挺付置より砲戦諸軍勢発
炮ハ不致候 松原へ攻込部田野之陣営ヘ大砲
を止め小筒せり合ニ相成 接戦中横合より賊
の伏勢起り追立られ 政軍ハ出来兼市川
勢を引付平磯の方へ攻込み潮所近くまで責

込ミ候処部田野攻軍を見受軍勢引上けし
此時板倉内膳正家来之内 馬関清助倅三郎
某ニ而年十六才部田野接戦中手負て賊を一人生捕り候處
敵中にて身元未糺ハ間板倉内膳正え家来
ニ而よく首打取らせ申候所 公軍生捕ハ無
益也且又指図も無之事ニて内々板倉手に戦も
られ此時若侍共ハ定而戦の節猶更候以るし
此生捕候たくらみを武士道の恥辱成りと而
なかなか生捕はすべしとて若侍共板へ戴せ候
の内元より生て味方へ入候所存ニ而割若侍

進せ候様こそ候へ共思ひきりしと宣ひて
若年ながら此比ハ生身ハ自由ならされハ合戦
とて右近房を召て踏落し我ハ松倉家の侍
なりと名付居しと頭を呼ハわり家ニ大勢ニ而
合戦を押出し本門底も痛を鎮め候而しハ
内外生捕の小者ともからも皆々切り死ニ候事
右某ハ甚ら鄉合ニ戦侍り所中立候よし
右戦ひの節味方にも討死手負も余程ありし様候
未詳候得ハよく覚え居りしなり
一十七日夕ニ惣攻の合ニ而鉄砲打掛り松倉勢

残ル祝町堀田家の侍より火矢を湊へ打込ミ家ニ
燃上り其外御所方辺悉く焼立候得ハ折しも風
合之烈しく立所ニ焼払し其時津根辺ニ出又
ニ松原見張関門ニ而破り部田野ニ而攻寄せ様戦
此所ハ宇都宮の人数五六百人出張之市川勢ハ
十日九過り手勢の方より攻寄せ是ニ湊町とて
まて責め寄り候中根勢も宇都宮勢共ニ踏ニ
出で右之筆伏勢の為ニ一手も破ら乍致し候
押出されて門を堅り返し筆一同破軍ニ而
之を見て市川勢も引上り候

此時市川三左衛門左の肩を鉄砲にて打れ候に
付是かしの事なすとも在々にて近辺ニて知れ候由
宮又殿の宮を打れ候処門前にて十分瑞迄
様利し家守部家人並軍ニ而為實家討上げ候由
一十日出攻の時戸田銀次郎討生なり是ハ天狗連
此方中ニ 此人数三百人程連れ陸ヶ崎へ付人 則々家血流より流
是又家人に討れ候内に十人余誅伐より出発仕候
行衛未知り不申候由
但此節何かと云の者共號日諸生派不容易
右此節朝比奈弥太郎方へ何迄江戸表へ出

出品ニ　公儀へ歎願之含のよしなる候ニ八月
十日元出立道中にて府中六日江戸着仕内心
右方へ之怨ニ寄手之覚悟にて為有之節江戸
為出向候ニ人此節出発致し候方にも有之至急
六七之者とも云　又京地へ天狗組大場主膳正
組之者とも在京且一橋殿へ附添入京致し水藩之
二百人余之者是有人数より出発仕候事に
案之由にて候よし
一大炊頭去十月中夜　水府表に於て切腹
仕候由此人ハ附属して降人の由にて多病失之族

千五百人余籠り居候由ニ付 水府表浪牢共
之斬罪ニ行ハれ候よし
水府城下ニ於て召捕候よし 右人数御城方へ乞入候ハゝ
城方より大炊頭殿降人ニ出候ハゝ召捕可被成
表ゟ入牢ニ相成候ものと若くハ相成候其殿まて
此節武田殿ニも牢へ御遣被成候慢怨のよし 御後
を味方衆相立候而 次ニ十七日戦の節生捕ニ而
生捕候者有之候よし 後ニ而の事候也
一 大炊頭殿切腹ニ被成候附属の鳥居大久保殿ゟへ
一切之者共殿ニ而 石州表ニ而内通之二心

之ニ而召捕候処 押捕入牢ニ相成候其者（脱走）鳥居殿ゟ
一 同時ニ而声を上其内ニ牢の柱へかぢり付
名を旗ひ識候しと云ことを正と云也 女牢
ニ而武事を以武田殿の家族共ニしくさけび
ならなへき語きこへける大方なる物ごきする
云へうしさるふるまひしと云きハせしと
一 右十七日戦争味方討死手負左之通
浦野友之門
小村小筒組 手負鉄砲方 馬谷兵蔵
吉野澄右衛門
小村小筒組 荒井仙右衛門
大多原

撒兵　討死壱人　手負三人
歩兵　討死弐人　手負十三人
右者歩兵組ニ而役人之内手負弐人
一 丹羽左京大夫家来之内　手負死人数不相知
丹羽勢ハ六ツ時迄石州持場へ相踏候処中
相引候上ケ共相場を成り濵口人数安藤人数候へハ
共場所不詳
一 十八日之合戦之通
手負　向井健之助　御持小筒組　小沼長助
村松孫三郎　田島吉三郎

手負　歩兵方役々並兵隊共三人
歩兵五十八人　但旗本ニ而補有之
討死　歩兵弐人
戸田越前守家来　福井　東　辻　主税
右者銃隊　家川
市川三左衛門人数之内　手負討死之儀未詳
丹羽左京大夫人数之内同断
右之通陣中より申来候得共　加賀方手負討死者
一向無之候
十九日何も申来不申

一十月廿六日付写御ゟ来書
去ル廿三日焼湊城方之手内通いたし居候ニ付放
火致し川俣小泉并ニ其他諸隊ゟ押返し
八ニ三シヤ館山湊町ニ於場ニ而一圓焼失いたし八百人
余降人有之候方人数馬滑人数ゟ搦手ニ而退去
致し候越後守ニ来候城の無究ニ付候而落去致し
分脱候者行方不知候
但落去之節之内ニ而田丸武田等者居之衆之悉
者夫ニ而退き討取候而も相成候由討取候由
首級之者何とも申上兼ニ土浦勢ニ而境之ニ見通

一治ニ而水戸城下之風聞ニ付候ハ河原子辺とも言候
一候由晦日燈ニ而河原子浜ニ而以之外至極難渋相成
居候
一十一月二日同出ゟ
去月廿三日脱走之賊徒武田田丸藤田飯田始
其外長尾出人数門被那珂湊村ニ而宿ニ上大子
村へ屯集之家追討として湊ニ人数ヘ出陣
此後香取原天下野村と経手賊徒二ツニ分レ
一手ハ右大子村ニ一手ハ田村より之荒川を越
袋田村と小生瀬村境月居峠へ押出し候処

烽巻戦争廿貫と云處へ市川三左衛門人数押し
向ひ忽賊徒多人討取追ふ所に付峠を越大袋
田村ニ引陣所を大子村と牒し合せ賊徒
其外水戸方侍より加勢として歩兵一大隊の兵
向ひ未だ成りし積り
右報知有之由申来る

一大子村ハ水戸より北へ十二三里金山手ノ蔭ニ
当村より栃倉へハ七八里隔りて候所へ

一袋田村と大子村とハ二里も隔り中に久慈川の流れ
を境ひに隣り合しの村也

一大子村ニハ八溝嶽囲ミ在之と云并武ニ候得共も有之處
ニよりし賊兵共寄引し候事と申其由
但此所水戸殿御領之

十月十五日秋松ニ咄

一賊徒共ハ右袋田村大子村より 何日と云ふ事なく 日光へ
向ひ之庭ニ休ミ止宿 何日比か止宿之や 夫より十一月
十三日太田小泉を通り利根川を押渡り本宿へ
へ打出る中山道へと人数凡八百人余
而る故大砲も八挺小筒之鉄砲打掛せしと云ふ
道之金丸張陣方ニ大騒ぎ之由也 と沙汰せ

引と云尤女丸たしと共多く出逢 皆之道歩かゝ候 とりと進行かし
追手ハ一里計先(東ニ)横中尚のかし追手存知之及兼
ルと云

常例 新年
吉田兼補書籍抄録
十月五日頼之由府段大書以神保山城守出元
織部山城守 多賀出雲守 紀太夫 野氏
関右人数 理割 等人々 岸山 なし 押手七
一 鎗四時頃門前之 奉行 又吏分石材所人共
まても押手其之奉行 河野丹井上荒
並水落書出者人 出雲守 宮右 者人
神保出来人 印元 組 人ニ金野人々陸 鑓鉄
一 右鎗等之節 神保多賀々多氏大胃打中ま

一 多聞ハ松永弾正のよし　折節雨降りて路次泥濘
かたくし襲を從へし旗本に揃へしとあるよし

一 日野之節織田保将監御書院并上坂中之小性
武者組と共に並へ高名之小栗新五郎近くに在て
鍛冶にて評判之

一 日野之節天野方ニ而書出組と語りし一名
之時鉄炮を誘き寄雨中に隔り五十余
並申の趣を聞給

一 慶六月江州道勝にて家康公より小笠原新蔵
并御小姓衆へ仰出候分御書と定て同様に

一 言継卿記ニハ鐵炮ニ利害ハ有りと申し一同
之候ハ西之丸にて入道ハ其後手にて利なし
右ハ五月始末なり

一 家康公御陣所御家中より与頭之面々御旗之役
仰せよし

一 尾州出張之書状に御陣所之先手の門江
道勝之陣所に在ゆへ在所の人家焼之事

一 よし

一 出方より云　鋤を渡もし付る　長官ハ元角際
七日り　付りと

一 去ル七日天狗田中愿蔵八十人ほと外ニ井當
所道庵ニ有之御座候

一 同月九日館山ニ而玄蕃頭殿御陣屋巡見之節右之壇
ニ清ヨリ出張天狗書ニ鉄砲ニ而殺之候[illegible]
太郎村ヨリ銚子道ニ潜ミ有之[illegible]郡[illegible]
塲織部殿ヨリ打手ニ而[illegible]討取[illegible]
ニ加ニ而ハ戸[illegible]ヨリ而土浦ヨリ[illegible]

一 同月十日朝ヨリ天狗市川ニ在ル諸隊
ニ及ニ[illegible]出張[illegible]先鋒
天狗ニ鋼利ニ[illegible]一家[illegible]諸隊[illegible]

天狗之諸術ヲ以[illegible]城入口ヨリ[illegible]利
大イニ破レ[illegible]殺傷[illegible]
凡四十人計[illegible]織田[illegible]大砲
御捉ニ候

別紙

一 去ル九月三日晩那珂港[illegible]内[illegible]
ニ會[illegible]攻入[illegible]討[illegible]漢[illegible]
家[illegible]國[illegible]人[illegible]
[illegible]右三四百人ニ而[illegible]村[illegible]道ヨリ[illegible]

以手紙致啓上候、然者先日御申出之儀承知仕候、[illegible]

可被下候

十月廿二日

貴公様

佐渡守

一　以手紙致啓上候、然者佐渡様御用ニ付而

御尋之趣承知仕候、右者去ル八月廿日御届之通

出府仕候処、反町弥佐右衛門御役所へ一同罷出

御知行所中御用掛り御申付候、右者金子拾両

人数御差出之儀ハ追而可申上候

被仰下候、村松の方へ御達之儀ニ付、長岡御家

之手掛ケ中ニ御座候分、郡奉行村上ニ而相勤

ニ懸り候ニ付、當年之御取計之儀ハ宜敷御頼申上

申上候

十月廿二日

佐藤半十郎

寺井善平様

松村忠四郎様

追而、飯田新蔵、飯田多兵衛、何れも切紙

以手紙致啓上候、且、森田・保坂・関田・左橋ニ而出府候

山田部出鮭山ニ正応三年ヨリ学院ヲ以第一太田
一里程帰ニ陰鳩ヲ場所々ニ切殺ニ之矣
又ハ無道ノ毛中ノ風雲ニテ候

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan